

(様式1)

大 学 名	名古屋大学	学 問 分 野	人文科学
専 攻 等 名	人文学専攻		
拠点のプログラム名称	統合テキスト科学の構築		
拠点リーダー氏名	佐藤 彰一	所属部局・職	大学院文学研究科・教授
プログラムの概要	人間の表現行為とその成果を「テキスト」の概念で捉え、テキスト形態の差異を越えて通貫するコミュニケーション行為の「普遍文法」を解明することが最終目標である。		
拠点形成の目的・必要性	本研究科の誇るべき伝統の一つに、歴史史料、文学・国語関連資料の地道なテキスト研究が挙げられる。この蓄積と学問的伝統を生かし、さらに一段の卓越化を図るとともに、美術史学と人類学の専門家をメンバーに組み込み、画像や音声・身体の所作などによって表現される現象をも分析対象に加え、それぞれのテキスト形態の独自の構造の認識を深化させるとともに、相互の関連にも留意しながら分析し、「テキスト」行為の一般規則を明らかにするのがねらいである。本研究プロジェクトの推進により、異なるテキスト形態を統合的に理解する道が開かれ、新しいテキスト論の地平が出現することが予想される。それはますます色濃くなって行くテキストの電子化の利害得失を見定め、文化の面でより豊かなコミュニケーション生活を実現するのに貢献できるであろう。		
研究拠点形成実施計画	<p>a) プロジェクト推進担当者15名を、その専門分野に応じて6部門に分け、責任担当チームを編成する。すなわち史料部門、思想部門、文学部門、画像テキスト部門、音声・身体部門、言語部門である。言語部門は他の5部門のテキスト研究を、言語学の側面から学問的に支援するとともに、その成果を記号論的に統合する際の理論的検討の要の役割を果たす。</p> <p>b) 5ヶ年を3つのクールに分け、6部門は各クールごとにそれぞれ固有の検討軸を設定して作業を実施する。</p> <p>c) 研究の遂行にあたって、随時学内外の専門家の協力を得ることと、それぞれの分野で国際的に著名な研究者を招聘しての共同研究と、国際研究集会の開催を通じての知見の蓄積が、研究作業の国際的レベルを担保する上で欠かせない条件である。</p>		
教育実施計画	<p>a) 本研究プロジェクトに関わる様々のデシプリンについて、現在国内では教育インフラが存在しない分野について（例えばラテン語・ギリシャ語古文書学）、海外から適切な研究教育スタッフをリクルートして、人材の養成につとめる。</p> <p>b) 大学院後期課程の学生に独自のスカラシップを与えて、それぞれの研究課題に則して研究チームの補助・支援組織の一翼を担わせ、研究組織全体の人的充実を図る。</p> <p>c) 博士論文の指導のために、当該分野の優れた研究者を海外から一定期間招聘し、講義、研究指導、論文審査に従事させる。</p>		

# 統合テキスト科学の構築

